

平成30年度 第2回 新潟市立西川図書館協議会 議事概要

日 時： 平成30年11月20日（火） 午後2時～3時30分

場 所： 西川学習館 研修室 B

出席者： 新潟市立西川図書館協議会 小林会長、高木副会長、佐藤委員、西村委員、石井委員、大西委員、笠井委員、桑原委員、福島委員
事務局 祖父江西川図書館長、小林主査、大西副主査、齋藤図書館司書

1 議事

(1) 平成29年度図書館事業報告及び評価について

(事務局) 案件概要説明

(高木委員) 第45回市政世論調査（平成30年度）の結果より、
については。対象は誰なのか。

(事務局) 無作為で抽出し、郵便でアンケートを送り返ってきたもの。対象者は4000人で、1655人から返答があったもの。西蒲区で図書館を利用した割合が高いのは、区内に4館あり、市民にとって身近な存在なのではないかと考える。

(笠井委員) 「新潟市の目指す図書館像」のエについて。事業を見ると、これが市民参画なのか？と思うものがある。図書館ではどういったことを市民参画・協働と考えているのか。

(事務局) 地域の方、ボランティアの方と協力することを「協働」ととらえている。一緒に図書館作りをする、主体的に事業に関わってもらい、など。また、この図書館ビジョンは来年度までのもの。

(大西委員) 読書普及事業費はどういったものか。

(事務局) 事業をする時の謝礼、消耗品、郵便料、事務的経費になる。

(大西委員) 子どもの読書環境整備事業費とは何か。また、使われていないのはなぜか。

(事務局) 報償費である。事業を行わなかったため使わなかった。平成30年度からは中央図書館で予算がひとまとめになり、事業を行う時にもらうことになった。

(高木委員) 管理運営費について。施設の管理のお金がそこに入ってくるのは大変だと思う。

(事務局) 市の予算は、枠予算と個別予算とある。枠予算は配当された金額の中で、内訳は所管に任せるといふもの。施設管理費は、単独で施設を管理する館はどうしてもお金がかかってくる。来年度の予算組みが始まったので、積み上げで要求する予定。

(大西委員) 西川図書館では、多目的ホールの管理も大変だと思う。以前にプロジェクターの調子が悪かったこともあった。

(事務局) 多目的ホールは、もともとは学習館が管理していたもの。イベントの際には、駐車場の数が多くないため混雑し、頭を悩ませている。プロジェクターは修理済。

- (小林会長) 雑誌リサイクルについて、どのくらいはけるのか人気度が知りたい。また、西蒲・曾根郷ゆかりの文人展は好評だったようだが、どういった感じだったのか。
- (事務局) 雑誌リサイクルは非常に盛況で、出した雑誌はほとんど持っていかれる状況。週刊誌が残る傾向。
文人展は、3日間の入場者数。多目的ホールの前の方に50人ほどに座って講演を聞いていただき、後ろの方で作品を展示した。講師から展示の解説もあった。
- (高木委員) 絵本の読み聞かせボランティア養成講座について。受講したら図書館で活動してほしいと思うが、それはできないのか。
- (事務局) 当初は、受講後に西蒲区の図書館で活動できる方という条件で募集したが、応募状況が芳しくなかった。そのため、受講してから活動するかどうか判断してもよいこととした。受講者はもう少し各々で勉強したいという方が多く、実際に「まつぼっくりの会」の勉強会に参加していくうち、ボランティアとして登録した方が1名いた。
- (福島委員) 岩室では、公民館でボランティア講座が開催されている。
- (事務局) 図書館で実施している講座とは別のもの。公民館で受講した方の活動場所は、学校や地域の茶の間。
- (笠井委員) レファレンスの件数について。数値が増えており驚いた。本の購入費が少なくなり、検索し、新潟市の別の図書館や県立図書館、大学図書館から取り寄せる件数もここに入っているということか。
- (事務局) 数値の増え方には図書館でも着目し、中身を分析した。増えているのは所蔵調査の数値。以前話題性が非常に高かった『火花』のような本は、昨年度はなかったと記憶しているので、そのような問い合わせの影響ではない。資料購入費減が響いて、棚に欲しい本がなくカウンター職員に聞く、というケースが増えたのか、はっきりとした要因は不明。
指標の表し方については、所蔵調査と事項調査で分けて細かく出した方がいいか、今後検討していく必要がある。
- (笠井委員) 事項調査について。どういった対象の調べものが多いのか。
- (事務局) 夏休みは子どもの自由研究の質問が増える。郷土史関係については、インターネットでは分からないため、図書館で調べるケースが多い。現物を見て探す必要があるため、郷土の調査は時間をいただいて調べることが多い。
- (高木委員) 児童の貸出数が少なくなったのは、学校図書館の充実もあるとの説明だったが、学校図書館の本は読みものの類が多いのではないか。
- (事務局) 学校でも調べる学習スタイルになってきている。学校の図書館には、情報センターの機能も求められている。そのため、読みものだけでなく、調べるための本も購入している。
- (石井委員) 学校図書館で授業を行う、という事例もあると聞く。
- (佐藤委員) 漆山小学校の図書館はラウンジという名前。静かに読書するのでは

なく、話し合ったり、調べ学習をしたりするスペース。学校に欲しい本がなければ、公共図書館から借りて廊下に並べてもらっている。

(西村委員) 学校図書館は総合的な学習の時間の時に使用する。公共図書館から本を借りられるのはありがたい。ただ、その分の数値は反映されない。

(高木委員) 本が学校へ行き、レファレンスにも使われているのだから、本当は図書館の数値に入れてもいいくらいだと思う。

(笠井委員) 配架ボランティア減少の原因は何か。

(事務局) 職員体制などの理由で本棚の整理が不十分な時期があった。4月に館長として着任し、本棚の整理が追いついていないと感じた。本棚が乱れていると、配架ボランティアもどこに本を返していいか分からず、活動の充実感もなくなってしまうため、そこに原因があると考えている。今年の本棚の整理を重点的に行っており、現在活動しているボランティアもいる。

(2) 平成30年度図書館事業中間報告

(事務局) 案件概要説明

(大西委員) 行政書士無料相談会の人数が気になった。また、行政書士に報償は支払うのか。

(事務局) 個別相談の形式、14時から15時、15時から16時の2コマで実施している。本人だけではなく、連れ合いの方が来ても良いがお一人での参加が多い。行政書士無料相談会は新潟県行政書士会との連携でやっているため、お金はかかっていない。

(福島委員) 認知症にやさしい本棚について。今後、高齢者福祉係と連携・協力していくのか。また、認知症サポーター講座の受講はしているか。

(事務局) 今後連携する予定。職員は、認知症サポーター研修があれば積極的に受講している。また、職員研修は、先進的に認知症のサービスをしている図書館の方を呼んで、サービスの方法を教えてください。

(3) その他

本日の議題や委員になって感じたことなど、各委員からの意見や提言

(佐藤委員) 学校は学力を高めれば良いと思われがちだが、施設にも目をかけてやらなければいけない。図書館も本の貸出や蔵書点検といった仕事だけだと思われがちだが、施設にも目をかけなくてはならず大変だ。協議会は勉強になることばかりで、それぞれの場所で頑張っていることが分かってよかった。

(大西委員) 中央図書館協議会で6年、西川図書館協議会はいま2年目。中央図書館協議会委員になった時にちょうどブックスタートやオンラインサービスが始まった。図書館は市民のためによくやっていると思う。財政難で資料購入費が大幅に減らされ、図書館内に広告を貼るなど、曲

がり角にきていると感じる。図書館はどういう風にあるべきなのか、この厳しい時代にどうしていけばいいのか、これからの図書館の在り方を考えている。

(桑原委員) 図書館は本を読む場所で、静かにしなければいけないイメージが強かったが、コンサートや本とは関係ないイベントが開催されるようになり、時代と共に図書館の在り方が変わってきた。自分は子どもを連れて図書館に連れて行きたかったができず、赤ちゃんも連れていけるような場所になってほしいとずっと思っていた。ブックスタートや赤ちゃんタイムが始まり、今では当たり前赤ちゃんを連れてお母さんが図書館にいるようになって嬉しい。休日に、幅広い世代の方々が新聞を読んだり、学生は勉強をしたり、地域の人々が集まって思い思いに過ごす図書館は素敵だし、ずっとあってほしい。

(福島委員) 病院に勤務し、新潟市の支え合いの仕組み作り推進委員もしている。高齢者の方々が図書館に行けないという現実があり、地域の連携が大事だと思い、茶の間を作ったり色々活動している。ボランティアさんが図書館から借りてくれた本を、茶の間で皆さんが読んでいる。岩室図書館で本を20冊くらい選んでもらい、連携できてありがたいし、予算が少ない中で頑張っていると感じる。時に、岩室図書館の接客が丁寧過ぎると感じることもある。もっと普通でいい。

(石井委員) 読み聞かせをしたり、コーディネーターもしている。図書館職員が中学校へ来て読み聞かせをしてくれている。数字にはあらわれない職員の大切さが分かる。図書館が共有しあって人を入れる、情報を交換し合うなどして頑張してほしい。

(笠井委員) 桑原委員の言う、これからの図書館の在り方を追求していくと、糸賀先生の仰るにぎわいの場作りの中心となる図書館になるかと感じた。そうすると、カフェなどもっと色々なものが併設された施設が必要で、今後そういった図書館ができていくのかと思う。市の財政危機から考えると、図書館が新しい形に脱皮するのはハードルが高そうだ。まず予算を切り込まれないようにするのが第一前提。

(西村委員) 「チーム学校」という言葉が叫ばれている。学校だけで完結するのではなく、地域とチームワークを持って教育を進めるというやり方。学校現場から見る公共図書館は、パートナーシップが強く、いつも支えてもらって感謝している。調べ学習や一人で仕事をする司書の支えになってもらっている。今後もサポートいただけるとありがたい。

(高木委員) 合併する前は色々イベントなどさせてもらったが、合併してできな

くなってしまう寂しく思っている。西蒲区の学童保育や幼稚園で読み聞かせの活動をしていた。図書館は、地域の図書館として、いろいろなことができる中心の存在にならないといけないと考える。

(小林委員) 6年間協議会の委員を務め、これまでの協議会の資料がかなりの量になっており、この場で色々な議論がなされ、それが進んでいるのではと感じている。都市部では町田の図書館など、若者や高齢者が熱心に使っている図書館もあるが、広い範囲で見ると課題もあると感じる。昨年は、委員で西蒲区の図書館を巡り、色々話をしてアイデアやヒントをもらえた。新潟市にはたくさんの団体やグループがあり、活動している。過去の記録も大事だが、現在活動している人たちの活動報告書などを置くコーナーがあると、うまく利用してもらえるのではと思う。

【事前配布資料】

次第

- 資料 1 平成 29 年度西蒲区図書館決算報告
- 2 平成 29 年度実施事業
- 3 図書館協議会における図書館評価について
 - 3-1 平成 29 年度新潟市立図書館施策・事業評価シート
 - 3-2 平成 29 年度新潟市立図書館指標別評価シート
- 資料 4 平成 30 年度事業中間報告（10 月末現在）

【当日配布資料】

座席表

平成 29 年度図書館要覧

参考資料 第 45 回 市政世論調査（平成 30 年度）の結果より